

2. 技術職員研修会

平成12年度技術専門官研修を受講して

工作センター 内田豊春

平成12年度技術専門官研修（正式には平成12年度国立学校等技術専門官研修）を受講したときの、印象と感想を簡単に書きます。

研修期間は平成12年8月23日（水）から平成12年8月25日（金）までの3日間。場所は、東京目黒区の大岡山にある東京工業大学百年記念館で研修が実施されました。

参加者は66名。参加した大学は、北は北海道大学、南は九州の熊本大学までの33大学と全国各地の8研究教育機関から研修受講者が集まりました。

研修内容としては、

(1) 講義

- ①大学行政上の諸問題
- ②職場の安全管理
- ③学術研究の振興と国際交流
- ④職場の健康管理（ストレスマネジメント）
- ⑤人事管理上の諸問題
- ⑥リーダーシップ
- ⑦特別講演「人工臓器研究と最先端」

(2) 実習等

- ①ポスターセッション
- ②施設見学（東京工業大学内）
- ③フリーディスカッション

が行われました。

講義は独立行政法人化（いわゆる独法化）に関する話題で多く、独法化された場合、現在の場合とどの様に違ってくるのかの説明がありました。恥ずかしながら私自身、独法化については、新聞紙面等で得た情報から「将来は何となくそんな事になるらしい」程度の漠然とした知識しか持ち合わせがなく、具体的な内容は理解していなかったもので、独法化については初めて聞く内容が多く私には切実かつ非常に重要な講義でした。

講義の中で、とくに私の耳に心地よく聞こえた独法化のキーワードは、予算と人事の弾力的な運用と評価制度の導入でした。

このキーワードを私が勝手に工作センターに当てはめて我田引水に解釈すると、

- (1) 予算面では、従来の単年度予算では出来なかった予算の繰り越しが容易に出来るということなので、センターの予算内ではこれまで難しかった最新鋭の高価な工作機械の購入も予算を数年計画で節約しながら使えば、自力で高価な工作機械を手に入れる手段が出来るわけです。

例えば、これまで個人所有物的にバラバラに購入し使用していた高価な切削工具、ツーリング類を一括管理し全員で有効に使える共通工具化する。新規の購入に関しては絶対に必要なもの以外は、なるべく既存の切削工具、ツーリング類を工夫利用するなどしてなるべく予算を節約する。浮いた予算を数年計画で積み立てて、何年か後には最新鋭の工作機械を購入すると言う理屈です。

- (2) 人事面では、学内の優秀な技術者を工作センターに集約して、いままでやりたいと思っても人手の関係からなかなか手がまわらなかった技術開発や新技術への積極的な対応が可能になります。
- (3) 反面、評価制度が導入されるわけで、良い仕事を数多くやれば高い評価を受けますが、ぬるま湯状態の中で十年一日のごとくダラダラと仕事を続けると、上に書いたバラ色の話は一転して、「センターの規模縮小と人員削減」、最悪「センターの廃止」何て事になる可能性も十分にあり得るわけです。

以上、私の個人的な独断と偏見に満ちた勝手な解釈で書きましたが、あながちあり得ない事ではないように思えます。

ここでちょっと打ち明け話をします。独法化についての講義の後、「初めて聞く内容がいっぱい有った」と、ある受講者に何気なく話したところ唖然とした表情で「今頃、何をのんびりした事を言っているのか!」とお叱りを受けてしまい、自分の勉強不足を恥じ赤面状態でありました。それだけ他の大学・機関では独法化について真剣に取り組んでいることが分かり反省した次第です。

次に、独法化関連以外にも印象に残った講義がありますのでちょっと書きます。

職場の健康管理（ストレスマネジメント）の講義では、ストレスといかに上手につきあうかが講義され、日頃からストレスだストレスだと思いながら仕事をする事の多い私には恰好の講義でした。講義を聴いた後、気のせいかわたが気分が楽になった感じがしました。

講義の最後に講師の方が「職場のストレスメカにならないように!」と念を押されたのが印象に残っています。

リーダーシップについての講義でも印象に残る話がありました。それはちょっと耳の痛い話なので。講義の流れの中で自己啓発についての話があり、自己啓発するためには①恥のレベルを上げる。②金の投資をする。③時間の投資をする。④苦痛の投資をする。⑤忠告してくれる人をもつ。が必要だと説明がありました。その説明の後、講師の方が「民間の人は有給休暇を使い、自費で各種の講習を受け自分のスキルを上げていますが、公務員の皆様はどうしていますか?」と問いかけられました。

一瞬考えてしまいました。私自身を含めて、自分のスキルを上げるために自前で費用を賄っている人は、私の周囲では・・・状態です。何から何まで職場を当てにするようでは、なかなか自己啓発を望むことは出来ないかと改めて考えさせられた講義でした。

以上、簡単に講義を受けた印象と感想を書きましたが、講義以外にも、フリーディスカッションでは次元の高い活発な意見交換が行われ、ポスターセッションでは高度な内容の発表が多く私には非常に参考になりました。施設見学では、技官の方の真摯に働く現場を見られたのが有意義でした。また、

懇親会ではいろいろな方と話ができ、多くの人脈を作ることが出来ました。

今回の研修は過去に受けた研修と比べ、内容が非常に刺激的かつ高度でした。また、講義の内容からも、これからは公務員としての安定した身分にあぐらをかいていられる時代ではなく、我々を取り巻く環境もより一層厳しくなることが予想されます。このような状況下で、筑波大学工作センターはいかに生き抜くかを考えながら研修を終えました。

最後に、今回の研修に参加させて頂けたのは第一事務区と研究協力課の方々のご尽力によるところが大きいです。紙面を借りてお礼申し上げます。

研修を企画開催された文部科学省ならびに東京工業大学の関係各位にもお礼を申し上げます。